

マララ・ユスフザイさんのストーリー



マララさんは、イスラム原理主義武装勢力タリバンの支配下にあったパキスタンのスワート渓谷で育ちました。彼女が11歳だった2009年、タリバンが女子校を次々と破壊。マララさんは、女の子が学校に通えない実状を、ペンネームを使ってブログに投稿しました。タリバン支配下での日常を発信したことで、女の子や女性の教育をうける権利や平和を訴える人権活動家として欧米メディアから注目されるようになりました。

そして同年、パキスタン政府軍が大規模な軍事作戦によってスワート渓谷からタリバンを追放した後、パキスタン政府はマララさんの本名を明かし、「勇気ある少女」として表彰しました。また、ニューヨーク・タイムズ紙にインタビュー記事が掲載されたことがきっかけで彼女の存在が一気に知られるようになりました。

2012年10月9日、マララさんは通学途中にタリバンのテロリストに襲撃されました。頭に銃撃を受け、重傷を負いながらも、一命を取りとめたマララさんは、現在は病院を退院するまでに回復しました。パキスタンに帰るとまた狙われる危険があるため、現在は家族と共にイギリスで生活し、学校に通っています。

国連で教育問題を担当しているイギリスのブラウン前首相はパキスタンのザルダリ大統領と面会し、すべての子どもに教育を受ける権利を求める100万人以上の署名を提出しました。また、パキスタン国内でも、市民団体が女子教育の拡充を訴えるマララさんの活動主旨に賛同する署名活動を展開し、120万人を越える人々が参加しました。そして、国連は10月11日を『国際ガールズ・デー』と定め、国際社会に女の子の教育やエンパワーメント（社会の中で発言したり行動したりできるように力をつけること）の実現を呼びかけています。

国際社会とパキスタン国内の声を受けて、国連とパキスタン政府が共同で、困難な状況に置かれている女の子が教育を受けられるよう支援することを目的とした「マララ基金」の創設を発表しました。パキスタン政府は、1,000万ドル（約10億円）の資金をマララ基金に投入することに合意し、さらに、この基金の使い道に関して、すべての女の子が学校教育を受けられるようにするための支援に用いることを国連に対して約束しました。

2013年7月12日、マララさんは国連本部で「1人の子ども、1人の教師、1冊の本、そして1本のペンが、世界を変えられる」と教育の重要性について演説。国連は、彼女の誕生日である7月12日を「マララ・デー」と名付けました。さらに、2014年12月には、児童労働の撲滅に取り組むカイラシュ・サティヤルティさんと共に、ノーベル平和賞を受賞しました。

マララさんの勇敢な取り組みが、世界中の人々の心を動かし、世界の指導者や多くの人々が立ち上がり、教育における大きな変化がパキスタンをはじめ、世界で起ころうとしています。銃撃にも負けず、世界中の応援を受けながら、マララさんは、「女の子に教育を」というメッセージを発信し続けています。